

第1回 山鳥坂ダム水源地域ビジョン検討会 議事概要

令和6年4月25日（木）

15：00～16：30

大洲市肱川支所（Web 併用）

■ 検討会規約（案）について

検討会規約（案）について承認され、座長に羽鳥委員が選任された。

■ 議事概要

事務局からの資料説明ののち、各委員から以下のとおり意見をいただいた。

- ダムの工事中は工事の進捗に合わせた形でのインフラツーリズムも検討し、優れた土木技術を伝えていくことが大切である。地域の文化的資源とまちづくりにダムをどう結びつけるのか、地域がそこにどう携わっていけるのかを考えるのが重要である。
- まずは岩谷地域や河辺地域などのダム周辺地域の再興が重要である。人口の流出が止まらない中、雇用が生まれることが最優先であり、その手段として拠点整備等も考えられる。
- 昔の子供たちは河辺川で遊び、河辺川と共に成長した。川遊びや河原でのニジマス焼きなど、今の子供たちが川で楽しい体験ができ、何度も来たいような場所になるとよい。
- 半世紀近く生活道がそのままで、地域ではもどかしい想いを抱えていた。ダム周辺の散策や避暑地としての活用等、ダム単体だけではなく肱川の上流地域全体を結んで連携できるような地域振興が必要である。
- 大洲市内に観光に来ている方をダム周辺に呼び込むためには、自然を活かしたコンテンツの構築やサステナブルツーリズムの検討が必要。ダム周辺での桜や紅葉の植樹等による観光名所化も有効。星空やホタルなど、この地域には魅力的なコンテンツが潜在している。
- 野村ダムや鹿野川ダムとの連携が考えられる。各ダム周辺の桜の名所などの各種観光資源をつなぐなど面的に考え、各ダムの強みを生かしながら検討することが重要。またかわまちづくりや生態系ネットワーク等との連携も重要。
- 山鳥坂ダムの水質には期待。土師ダムや早明浦ダムのように、キャンプ場、カヌー艇庫、湖面競技場などを整備し、カヌーの聖地として肱川地域、河辺地域の活性化に寄与できるとよい。
- 施設整備は活用方策が課題になりがちであるため、先行してイベント等のソフト施策を実施する方法も有効である。地域の気運が高まった後、必要に応じた施設整備を行うなどの事例が全国でも増えている。また地域資源を掘り起こし、マップで整理することも一案。